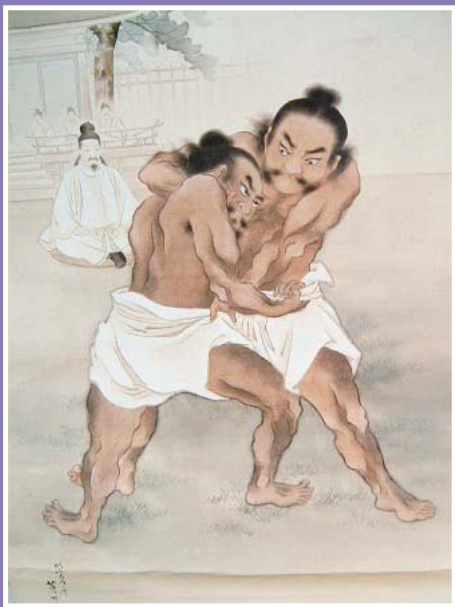


相撲の歴史を現在に伝える



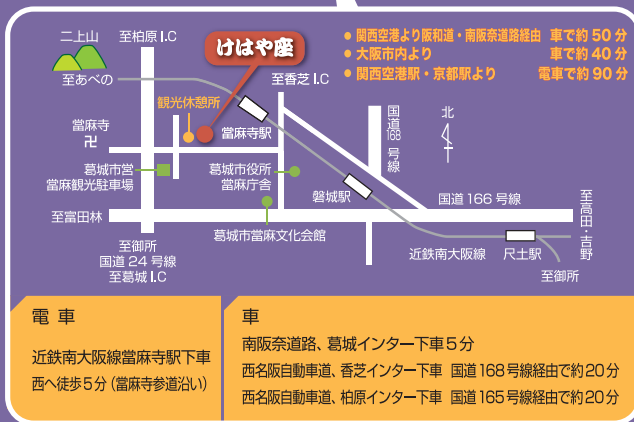
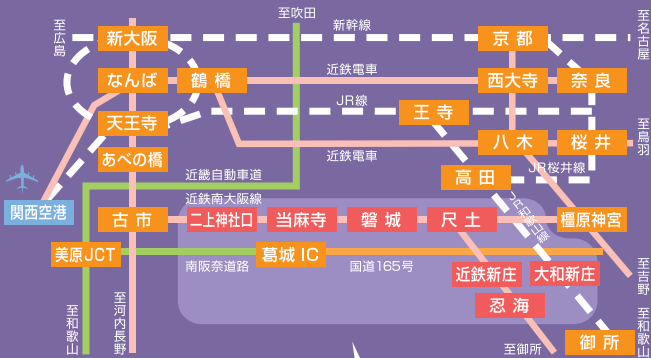
たいまのけはや のみのすくね 當麻蹶速と野見宿禰の天覧相撲

相撲の起源として「野見宿禰」と「當麻蹶速」の天覧相撲が日本書紀に書かれています。

大和の國當麻の邑に「當麻蹶速」という人物がいました。蹶速は手で角をへし折るほどの怪力の持ち主で、常日頃から「この世で自分と互角に力比べが出来る者はいない、もしあればその人物と対戦したいものだ」と豪語していました。天皇はその話を聞き、家臣に「當麻蹶速と互角に戦える者はいないのか?」と尋ねたところ、家来の一人が「出雲の國に野見宿禰なる人物がいます。この人物を呼び寄せて蹶速と戦わせてはいかがでしょうか?」と進言しました。天皇は大いに賛成し、垂仁天皇7年7月7日に「野見宿禰」と「當麻蹶速」の対戦が行われました。お互いに足をあげて蹴り合い、長い戦いの末、けやはこの試合で命を落としてしまいました。

この「宿禰」と「蹶速」の力比べが国技相撲の発祥とされ、また、我が国初の天覧相撲と言われております。

交通図



施設利用の案内

料金 大人 300円 小人 150円
 団体割引 (20名以上) 大人 250円 小人 120円
 開館時間 午前10時より午後5時まで
 休館日 毎週火・水曜日
 (火曜日・水曜日が祝日の時は開館します。)

- ◆ 外国人観光客の方はパスポートを提示されると入館料が無料になります。
- ◆ 無料観光休憩所も併設しています。

葛城市相撲館「けはや座」

〒639-0276 奈良県葛城市當麻83番地1

URL <http://www.city.katsuragi.nara.jp/index.cfm/14,0,41,html>
 E-Mail syokou-kankou@city.katsuragi.lg.jp



相撲のルーツを極める 葛城市相撲館「けはや座」



誰でも自由に
仕切りや塩まきが
体験できるよ!



相撲館前に建立されている五輪塔(枠内)は當麻蹶速(たいまのけはや)のお墓と語り継がれ、古くから「けはや塚」と呼ばれております。



相撲館紹介

葛城市相撲館は平成 2 年 5 月に開館しました。全国でも珍しい相撲の資料館です。館内 1 階中央には本場所と同サイズの土俵があり、2 階には相撲の歴史や郷土力士に関する資料等が展示されています。

相撲体験(要予約)

葛城市相撲館では、相撲の普及活動を目的に相撲体験を行っています。誰でも自由に土俵にあがって、相撲の指導を受けることができ、まわしをしいて力士の気分を味わっていただけます。



相撲甚句披露(毎月)

日本国技の伝統文化を伝承するために相撲甚句の披露が行われます。

(原則 第 1 日曜日午後 2 時~4 時)



館内展示ギャラリー

館内には相撲の歴史、奈良県出身力士等のコーナーがあり展示替えも行っていきます。

力士の道具



明け荷(開け荷)

明荷(あけに)とは、大相撲において十両以上の関取や行司が、化粧廻し、締め込み、浴衣などの身の回りの品を入れる行李。竹としぶを塗った和紙でできている。



化粧廻し

関取(十両)以上の力士が土俵入りするときなどに用いるまわし。主な生地は絹(絹子・どんす)。前面に前垂れのようなものがあり、それに金糸・銀糸の刺繍(ししゅう)などを施す。

資料



「相撲番付」

約 600 名の力士の他に、親方、行司、呼び出し等の名前が書かれている。



錦絵画

力士を題材にした錦絵。江戸時代~明治時代。江戸時代に流行した多色刷り木版画。

雑誌、レコード、カルタなど相撲に関する資料を所蔵。



雑誌「相撲と野球」



レコード



カルタ



相撲あれこれ

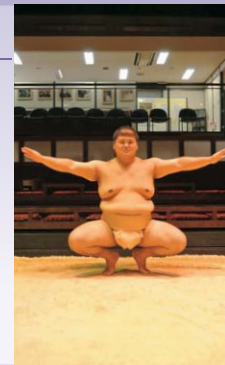
【土俵について】



土俵は一辺が 5m70cm の正方形の中に直径 4m55cm の円を囲ったかたちをとっており、高さは 54cm が基準となっています。土俵は神聖な場所とされており、女性があがったり、履物を履いてあがるのが禁じられていますが、当館の土俵は展示土俵であるため女性のもとより履物を履いてあがることができます。

【チリを切る(塵手水)】

相撲では、最初に対戦する力士が腰を下ろして向き合う「蹲踞(そんきょ)」という姿勢をとった後、「チリを切る(塵手水)」という姿勢をとります。まず、両手を膝の内側の前方に伸ばし、頭を下げ、両手を胸のあたりであわせて拍手を打ちます。これは「武器は何も持っていないので正々堂々と勝負をする」というサインです。最後に、大きく手を広げ、手のひらを返して、対戦に移ります。



相撲の勝敗



相撲の基本ルールは相手を土俵の外に出すか、相手の足の裏以外の体を土俵の土で触れさせると勝ちになります。まず審判の役割をする行司が両方の力士に礼をさせ、「はっけよい、のこった」の掛け声で競技開始となり、勝負の判定と同時に行司が「勝負あった」と発声すると競技は終了します。ここで勝者は行司から勝ち名乗りを受け、敗者はそのまま退場します。